

学会見聞録 第18回

第14回 日本フットケア学会年次学術集会

2016年2月6日(土)～7日(日)：神戸

大谷 則史

製鉄記念室蘭病院副院長・心臓血管外科

2016年2月6日(土)～7日(日)の2日間にわたり、神戸大学大学院医学研究科形成外科学教授 寺師浩人先生を大会長として第14回日本フットケア学会年次学術集会が神戸市の神戸ポートピアホテルにて開催されました。学会参加人数は2500人以上と、これまでになく壮大な学会開催となりました。

開催前からプログラムを閲覧するかぎり、フットケアのすべてを網羅する偏りのない学会になるだろうと想像していましたが、的確な教育講演が充実しており現場で診療しているスタッフのプレゼンもしっかりと採択していただき、大変内容の充実した学会開催となっております。

日本フットケア学会は、平成28年度より一般社団法人 日本フットケア学会として活動しています(写真1)。当法人は、チーム医療によるフットケアおよび

下肢病変に対する予防、治療、教育、研究の増進普及を図り、医療に貢献することを目的としています。このため、当該疾患に関わる専門職種が集い、研究発表、講演などを通じて、専門的知識の啓発および学術の発展に寄与することを目的とし、改組・成立しました。

本総会の寺師会長は、本総会があらゆる職種が自身の足の分野を見据え、それぞれが「歩行」という摩訶不思議な機能を守るために何ができるのかを問うための学術集会と位置付け、参加者が感動を胸にそれぞれの施設に戻った後には学んだことを日常診療に生かして



写真1 一般社団法人に改変してからの定時社員総会の風景



写真2 会長招宴で挨拶する寺師会長